

四賀地区 図書だより

令和4年8月1日号

発行 四賀公民館図書視聴覚委員会
(事務局 TEL 64-3112)

「平和」について 考えてみましょう



戦後に生まれ、平和があたりまえ、戦争はない、しない国、そう思って生活してきました。今年2月24日、ロシアのウクライナへの軍事侵略が、突然報道されました。それから、目を覆いたくなる惨状がテレビや新聞で伝えられています。尊い命が奪われています。そして、なかなか終わらない戦争は、日本も含め世界中に影響を及ぼしています。

10年ぐらい前に、ある方から「世の中で一番大切なことは何ですか？」と問われたことを思い出しました。私は年齢的にも「健康」かと思いましたが、その方は第1に「平和であること」第2に「健康」第3に「少しの財力」とおっしゃいました。「世界中が平和であること」が一番大事なことだと…。この言葉を今、痛感しています。

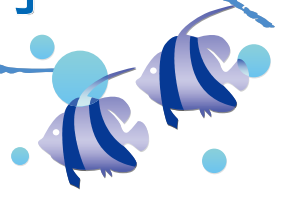
先日、阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」に行く機会がありました。そこで5年生の時に満州から引き揚げて来られた88歳の女性から当時の悲惨な状況をお聞きしてきました。「戦争は絶対に繰り返してはいけない」「あの時の経験をこれからの人に誰にもさせてはいけない」そんな使命感で大変な経験を話してくださいました。

時代の経過とともに忘れてたり、知らないがために過ちを繰り返してしまったりしないように、また、他人ごとではなく自分や子や孫たちの問題として捉え、いつもの年以上に「平和」について考えてみましょう。図書室には「戦争」「平和」「命の大切さ」を書いた本がたくさんあります。是非、足を運んでみてください。子どもたちにも絵本などを読んであげてください。

- | | | |
|---------------------|-------|---|
| ◎『池上彰の君と考える戦争のない未来』 | 池上 彰 | 著 |
| ◎『ロシア点描』 | 小泉 悠 | 著 |
| ◎『二番目の悪者』 | 林 木林 | 作 |
| ◎『ぼくのこえがきこえますか』(絵本) | 田島 征三 | 作 |



新着図書・おすすめ図書のご案内



新着図書

『うごきません』	大塚 健太	作
『迷子の魂』	オルガ・トカルチョク	文
『きょう、おともだちができたの』	得田 之久	作
『そだててみたら…』	スギヤマカナヨ	作
『かなしみがやってきたらきみは』	エヴァ・イーランド	作

児童書



一般書

『おいしいごはんが食べられますように』	高瀬 隼子	著
『物語ウクライナの歴史』	黒川 祐次	著
『爆弾』	呉 勝浩	著
『昔話の扉をひらこう』	小澤 俊夫	著
『夜に星を放つ』	窪 美澄	著
『ターシャ・テューダー人生の楽しみ方』	食野 雅子	著
『ザリガニの鳴くところ』	ディーリア・オーエンス	著

おすすめ図書



『同志少女よ、敵を撃て』（本屋大賞受賞作） 逢坂 冬馬 著
第二次大戦の独ソ戦が舞台。主人公の少女セラフィマは18歳、復讐のために狙撃訓練学校に入る。戦いの中でずっと敵としてドイツを見ていたセラフィマだが、次第に味方の赤軍（ソ連）に目を向けるようになる。占領後ドイツ女性に乱暴しようとする赤軍兵士。「いったい私は誰を撃とうとしているんだろう？」少女達の『敵』は誰なのか…。物語中の戦争をめぐる話は歴史的事実に基づいている。



『戦争は女の顔をしていない』スヴェトラーナ・アレクシェーヴィチ 著
これも、第二次大戦のソ連が舞台。ソ連では百万人を超える女性が志願し、看護婦や軍医としてのみならず、兵士として武器を手にして戦った。作者は独ソ戦に参加した500人の女性に聞きとりを行った。従軍した女性達の絞り出すような告白。国家権力に抗いながら民の立場で執筆活動を続け、戦争の真実を明らかにしたノーベル文学賞作家の主著。この本の最初のエピソードが『同志少女…』に繋がる。



『せんそうがやってきた日』（絵本） ニコラ・デイビス 作
…野辺には花が咲き、お父さんは弟に子守唄を歌っていた…。そしてランチタイムのすぐ後に戦争がやってきた。日常に突如襲いかかり、全てを破壊し、心の中にまで入り込む戦争。世界には一人ぼっちで避難している子どもの難民が大勢いる。その子ども達が夢と将来への希望を持ち、前向きに人生を切り開いていけるように、私達ができる事は…。

編集後記

8月1日号のテーマは「平和」についてです。
“おすすめ図書”に、テーマに繋がる本を3冊選んでみました。ロシアのウクライナ侵攻は依然として止みません。『同志少女…』と『戦争は…』は第二次大戦の独ソ戦が舞台の作品ですが、現在のウクライナ情勢と重なるところもあり、とても心が痛み様々考えさせられます。平和の時代が来ると信じたのに世界はまだ戦争をしている…。私達は今何を為すべきか…。日本ももうすぐ終戦記念日を迎えます。